

種目（音楽）

<div>発行者名</div> <div>採択基準</div>	<div>教育出版（小学音楽 音楽のおくりもの）</div>
<div>1 教科の目標からの配慮</div>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素が明示され、音楽活動を通して実感を伴いながら理解していけるように構成が工夫されている。 児童の気付きや思いを引き出すような問いの例が示され、音楽のもつ多様なよさやおもしろさを感じ取ることができるよう、様々な時代や多様な曲種が配列されている。 多様な教材、活動が配置され、児童が主体的に取り組めるよう工夫されている。
<div>2 児童の学習活動への配慮</div> <div>○内容の程度</div> <div>○学習活動への誘意性</div> <div>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、イラスト等</div>	<ol style="list-style-type: none"> 各学年の発達段階を配慮し、既習事項と関連付けながら系統的に知識及び技能が身に付くよう配慮されている。 見開きごとに、学習のねらいや見通しをもった学習をサポートする「まなびナビ」が示され、児童が主体的に学びを深め、協働的な学びを引き出すよう工夫されている。 巻頭に「学習マップ」が示され、児童が学習の見通しをもって、主体的に学習を深めていくことができるよう配慮されている。 体を動かして鑑賞する活動や「まなびリンク」の掲載、他領域との関連など音楽的な見方・考え方が働くよう工夫されている。 情景が思い浮かぶような折り込みの写真、児童側から見た楽器の写真など児童が自ら学習に向かえるよう配慮されている。
<div>3 学習指導への配慮</div> <div>○単元・題材の配列</div> <div>○内容の扱い</div> <div>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</div>	<ol style="list-style-type: none"> 音楽活動を楽しみながら、無理なく資質・能力を育成できるように、全学年を通した領域・分野の系統性に基づいて題材、教材が配列されている。 その題材の主な音楽を形づくっている要素を要として、鑑賞と表現を関連させた題材や、「もっとあそぼう」と既習事項を発展させた学習展開が示されている。 「音楽のもと」として音楽を形づくっている要素やペアやグループで関わり合う活動が示され、主体的・対話的な学びにつながるよう配慮されている。 日本各地の楽曲が教材として示されており、地域の実態に合わせた学習を展開したり、児童の実態に応じて学習形態を選んだりできるよう工夫されている。 歌唱教材には、歌詞の内容を忠実に表した見開きの拡大写真が掲載され、鑑賞教材には楽曲の構造や演奏団体の構成が図や写真で示されるなどの配慮がされている。 巻末の「音楽のもとまとめ」では、音楽を形づくっている要素を観点とした評価や振り返りができるよう工夫されている。
<div>4 全体的な特色</div>	<ul style="list-style-type: none"> 系統的に題材が構成され、音楽を形づくっている要素で捉え、思いや意図をもって学習できるよう工夫されている。 日本と世界の音楽が取り上げられたり、「ショート タイム ラーニング」で他教科と関連した学習が紹介されたりするなど、音楽と生活の結び付きを意識できるよう工夫されている。

種目（音楽）

<div>発行者名</div> <div>採択基準</div>	教育芸術社（小学生の音楽）
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素が明示され、それを生かして表現や鑑賞の活動が進められるように構成されている。 ・ 発達段階を考慮した系統的かつ各領域分野にわたってバランスのよい構成になっており、音楽的な見方・考え方を働かせて、領域を相互に関連付けながら、学べるよう工夫されている。 ・ 題材のねらい・学習活動・ふりかえりが具体的に示され、主体的な学びにつながるよう構成されている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘索性</p> <p>（本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等）</p>	<p>(1) 楽曲や歌詞の内容、音域などについて、発達段階に応じて考慮され、学習内容も系統的に配列されるよう配慮されている。</p> <p>(2) 興味・関心を引き出す吹き出しや思考の深まりにつながるような活動のヒントが盛りこまれ、協働的な学びにつながるよう工夫されている。</p> <p>(3) 学習のねらいや活動の手立てが示され、見通しをもってスモールステップで学習できるよう配慮されている。</p> <p>(4) 鑑賞では、挿絵や楽器の写真、図形楽譜や比較鑑賞曲が掲載され、楽曲のよさを感じることができるよう工夫されている。</p> <p>(5) 注目したい箇所を焦点化した歌詞や写真の掲載、枠により、必要な情報を得られるよう配慮されている。</p>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>（「基礎的・基本的な知識及び技能の得得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価）</p>	<p>(1) 発達段階に合わせた系統的な題材の構成とねらいに即した教材が配列され、学んだことを関連付けたり活用したりしながら無理なく学習が身に付くよう工夫されている。</p> <p>(2) 題材ごとに各領域を関連させて学習に深まりが生まれるように工夫され、既習曲や参考曲を活用することでより発展的な学習展開につながるよう配慮されている。</p> <p>(3) キャラクターの吹き出しなどにより、児童が意見を交流しやすいようなヒントが示され、主体的・対話的に学習が進められるよう配慮されている。</p> <p>(4) 手遊び歌やわらべ歌、伝統芸能や祭りなど児童の生活に則した教材が幅広く取り上げられ、地域の実態に合わせた学習ができるよう工夫されている。</p> <p>(5) 図形楽譜や情景を思い浮かべる一助となる写真の見開き掲載、パートが明確になるような歌詞の囲み、場所を統一した二次元コードの掲載など視覚的な配慮がされている。</p> <p>(6) 題材のねらい、観点別の学習活動、学習のまとめが具体的に示され、評価の観点が明確になるよう工夫されている。</p>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 系統的に題材が構成され、音楽を形づくっている要素を捉えながら見通しをもって学習できるよう工夫されている。 ・ 社会と音楽の関わりや、日本と世界の様々な音楽を取り上げるなど、音や音楽への興味・関心を高めながら学習し、音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成できるよう工夫されている。